

特集

創造都市 横浜

横浜市都市経営局調査・広域行政課

vol.163

調査報
調季

2004年1月、「文化芸術・観光振興による都心部活性化検討委員会」から「文化芸術創造都市―クリエイティブシティ・ヨコハマ」の形成が提言され、4月には「文化芸術創造都市事業本部」（現在は開港150周年・創造都市事業本部）が新設されて、横浜市は「創造都市」に本格的に取り組み始める。

来年は開港150周年という節目を迎える今、5年目を迎える「創造都市横浜」はどのように展開され、どこへ行くかとしているのだろうか。

「創造都市」という考え方は、1990年代から欧米で論じられるようになり、成功事例も現れている。これらについては調査季報154号（2004年3月）に詳しく紹介されているが、時を同じくして横浜でも、都心部活性化を考える中から「創造都市」構想が生まれてきた。

今回はこれを、開港から今に至る横浜の都市構想の大きな流れのなかで捉え、未来に向けて横浜の姿を描くことを考えた。そして3章では行政の施策面から5つのプロジェクトの検証と展望を試み、4章、5章ではそのルーツである「都市デザイン」（都市計画）と「文化芸術振興」（文化政策）について、6章では「創造都市構想」のもう一つの側面である「経済振興」（産業政策）について述べている。そして7章では現場からの意欲的な報告と考察をいただいた。最終章では、今まさに「創造性」によるまちの再生の取組がはじまった「初黄・日の出地区」を紹介しながら、従来の枠をこえて広がりつつある「創造都市横浜」の新たな展開を展望した。

この5年間で「創造都市横浜」は、着実にそして急速に広がっている。しかし、大きな都市構想としてこれを考えるとき、取組はまだはじまったばかりともいえる。10年20年、もしかすると50年という単位で、今後を見ていきたい。